

環境 ビジネス

2008年12月1日発行(毎月1回1日発行)
通巻78号

www.kankyo-business.jp

注目 レアメタル産業、2009年の見通し

地域密着! 廃食油バイオディーゼル

Well! 廃棄物処理施設・

住民コミュニケーションのコツ

特集

カーボン オフセット 活用のABC

マーケティング&販促の切り札!?

12 2008
月号

PR

導入実績520台! 350万円洗濯機サイズのEOSYS-50で

日本中に エコエネルギー産業 をつくる!

バイオディーゼル製造装置 セベック

手軽な小型機が販売好調

フィルターの目詰まりや低温時の流動性低下などの課題の克服のために大学研究機関とともに技術開発を重ね、2000年に1号機のEOSYS-500が誕生しました。8時間で500ℓのバイオディーゼル燃料ができる自動運転の機械です。しかし、なかなか売れなかった。販売数が急増したのは6時間で100ℓの生産能力をもつEOSYS-50を開発・発売してからです。こちらは手動運転でサイズも家庭用洗濯機ほど。値段も350万円と、EOSYS-500の約1/7の手ごろな価格となっています。

地域密着ビジネスモデルを支援

バイオディーゼル燃料のよさを理解してくれる方は確実に増えています。軽油より10円ほど安い価格で売れるため、品質の安定性さえ確保できれば、買いたい事業者を探すのは難しくありません。

むしろ、廃食油を集めるほうが重要です。そこで、セベックでは回収から燃料の販売先とのマッチングまで踏み込んでユーザーをサポートしてきました。中小規模の地方都市の場合、商店街の飲食店や工場の社員食堂などをたずね歩くことで確実に廃食油の回収ルートができます。また、収支モデルも、排出事業者や地域特性によってフレキシブルに設定します。小さな居酒屋

屋さんなら年間100円という買取り費用の設定でも成り立ちます。排出者にしてみれば、処理費を払って回収してもらうか、固めるテンブルなどで可燃ごみとして出す費用が浮くのでメリットが大きいのです。

また、見ず知らずの業者が説明するよりも、顔見知りの地元の企業が説明したうで回収することで、地域の理解を得やすくなります。いまから5~6年前はバイオディーゼルの認知度が低かったので、CO₂削減や汚染防止効果の説明に苦労しましたが、最近は地球温暖化や原油高の影響もあって、かなり理解を得やすくなっています。

セベックでは回収ルートの構築支援とともに、事業の継続性を考えた収支モデルの設計やアフターフォローも行います。メーカー保障1年、6年間のメンテナンスが販売価格に含まれています。メンテナンスは特に必要ありませんが、万一のトラブルには素早く対応しています。

地域と企業の連携モデル構築 国内排出権取引も始まる

経験的に、バイオディーゼル事業は地域密着型で小規模な単位で始めるほうが成功しやすいのですが、これからは、大企業の事業所と地域が連携したビジネスモデルの構築が求められています。大企業は事業所単位でのCO₂削減が課題となっています。そこで、CO₂を削減したい企業が装置を購入し、福祉施設や廃棄物の収集運搬業者など地域密着型の事業者へ貸し出し、廃食油バイオディーゼルの生産を依頼、それを装置の貸し手の大企業が使用するビジネスモデルです。

すでにそうした取組みを始めている企業も出てきました。弊社でも排出者、



EOSYS-50

- 生産能力: 100ℓ/6時間
- サイズ: H1460mm×D750mm×W750mm
- 電源: 三相200V 5.2kW
- 重量: 140kg
- 操作方式: 手動運転(半自動)
- 価格: 350万円
- 特徴: 廃食油100ℓから90ℓのバイオディーゼル燃料を製造。粘度の高い植物油を燃料に適した粘度に下げするためにメタノールとアルカリ触媒を加えてエステル交換反応を起こし、軽油と同等のメチルエステルを取り出す。不純物を取り除く洗浄・脱水工程を経て完成。添加剤を加えることで、低温時の流動性低下を防ぐことができる。
- 発売元: 株式会社 セベック
- WEB: <http://www.sebec.co.jp>
- TEL: 03-3515-2151

回収者、使用者の3者をコーディネートすることに力を入れていく方針です。

軽油価格の高騰で、バイオディーゼル事業の利益率は格段に高まっています。この「小さなエコエネルギー開発」事業には、大きなチャンスが到来しています。地域の皆さんとともに、まだまだ未開拓の油田を掘り起こしたいと考えています。

バイオディーゼルとは

植物由来であることから、地球温暖化の原因となるCO₂を排出しないカーボンニュートラルな燃料。大気汚染の原因となるSOx(硫黄酸化物)をほとんど排出せず、黒煙も軽油の1/3。大豆や菜種など、食料と競合するバイオ燃料の増産が穀物価格の上昇を招いていることから、食料と競合しない原料(ヤトロファや廃食油など)の開発・普及の必要性が高まっている。



株式会社セベック 代表取締役社長 小豆嶋 和洋氏

会社概要 ■設立: 2000年5月 ■事業内容: 廃食油再生燃料化(バイオディーゼル)装置の開発・販売およびリース。廃食油再生燃料の生産および販売。業務用揚げ油の劣化防止素材の開発・販売およびリース